

【法蔵館文庫】

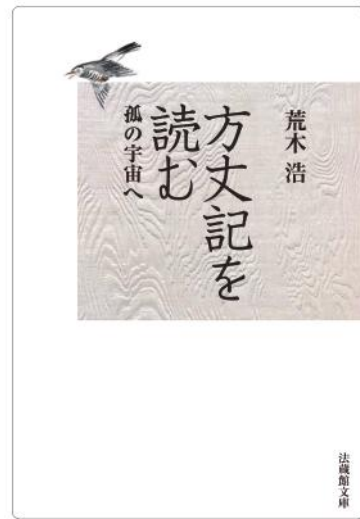
方丈記を読む

孤の宇宙へ

文学・随筆

あらき ひろし
荒木 浩著 ▼文庫判・並製カバ！336頁・定価1,330円

2024年3月刊行



災害が続く不安な時代、生きづらさを抱える鴨長明が求めた理想の独居とは。第一人者による新訳と解説で味わう、古典屈指の名随筆。

【目次】

はじめに

序章 『方丈記』概観

第一章 ユク河ノナガレと(無常)観のイントロ

第一回、かくもはかなき世の姿——川面をながめて観想する
第二回、仮の宿りと人の無常

第二章 「世の不思議」と「予(われ)のこと

第三回、災厄Ⅰ 安元の大火——「末広」に燃える都
第四回、炎上の蠱惑——危うき京中の家々
第五回、災厄Ⅱ 京都を巻き上げる大旋風——危険な兆候
第六回、災厄Ⅲ 意想外の都遷りと怒り、そして旧都の荒廃
第七回、福原の「都の手振(てぶり)」と「鄙(ひな)たる武士(もののみ)」
第八回、乱世の瑞相と還都の哀愁
第九回、災厄Ⅳ 養和の飢饉——「うれへ悲しむ声、耳に満(み)てり
第十回、シンデミツクの「濁(ぢよく)悪(あく)世(せ)」
第十一回、沈黙の反復——愛と死を見つめて
第十二回、災厄Ⅴ 元暦の大地震勃発
第十三回、大地の異変——余震と大仏「みぐし」墜落の記憶
第十四回、五大災厄の終わりに——この世の中のありにくさ

第三章 私の人生と住まいの記

第十五回、縮み志向の後半生——家出・独立と出家・大原まで
第十六回、六十(むそぢ)の露と日野の「方丈」——「方丈記」の核心
第十七回、日野の庵のインテリア

第十八回、西に傾く春夏秋冬——庵をめぐる宇宙観
第十九回、十歳の友、麓より来たる——閑居の日常と散策
第二十回、深い夜の景気と山の音

第四章 「閑居の気味」と「三界唯一心」

第二十一回、五年の月日と長すぎた春？
——仮の庵の安逸と危うさ

第二十二回、人はなんで家を作るか——What men live by?
第二十三回、手の奴(やつこ)、足の乗り物
——長明のユーモアと身心観

第二十四回、世界は心ひとつなり——閑居の気味

第五章 終章——自問自答と念仏と

第二十五回、ものみな月で終わる——外山の庵と蓮胤の記
解説——読書案内をかねて

参考文献等一覧／『方丈記』関連地図／鴨長明関連略年譜
おわりに

◆著者略歴

荒木 浩(あらき ひろし)

一九五九年生まれ。京都大学大学院博士課程中退。博士(文学)。国際日本文化研究センター教授・総合研究大学院大学教授。専門は日本古典文学。著書に『今昔物語集』の成立と対外観、『古典の中の地球儀』、『京都古典文学めぐり』など。

注文書	
(書店印)	
ご担当	様冊
荒木 浩著	法蔵館
【法蔵館文庫】	定価 1,330円
方丈記を読む	住所
——孤の宇宙へ	お電話
ISBN : 978-4-8318-2661-9 C0195	お名前

ご注文はFAX:075-371-0458

法蔵館

〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入
TEL 075-343-0458 FAX 075-371-0458
http://www.hozokan.co.jp info@hozokan.co.jp